

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 一関地方農林業振興協議会
都道府県 岩手県
対象地域 一関市、平泉町
対象品目 なす



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

岩手県一関地域の施設なす栽培では病害虫被害を抑えるため、天敵製剤「スワルスキー」と化学農薬の組み合わせによる定期的な防除が実施されている。一方で大規模施設経営体は、薬剤散布の労力負担が大きいことや既存の体系だけではアザミウマ類等微小害虫の侵入増殖を抑えきれていないため、他の防除対策の導入が必要となっている。

そのため、外部からの害虫侵入、施設内部の増殖を抑制する物理的防除資材について検証し、天敵と組み合わせた環境にやさしい防除体系技術の確立を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													

▼

グリーンな栽培体系													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	11.1	▶ 11.1	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 0.4	事業開始年（R6）の取組面積0.23ha
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 0.4	同上
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 0.4	同上

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵及び各種資材を活用したIPM	化学農薬（殺虫剤）の使用回数の削減・省力化
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	化学農薬（殺虫剤）の使用回数（回）	13	▶ 6	殺虫剤使用回数 13回→6回
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

本事業の実証ほを活用し、いわて平泉農業協同組合なす生産部会員を対象とした現地視察や研修会を開催するとともに、本栽培体系をマニュアル化し「一関地方なすブック」（栽培マニュアル）に追加・配布することで、本栽培体系の普及・定着を図る。
--

関係者の役割

関係者名	一関農林業振興協議会	農業者（なす生産部会）	一関農業改良普及センター	市町
役割	事業実施総括	実証ほ設置及び管理、情報発信	技術指導、成果の周知（マニュアル、情報伝達等）	成果の情報発信等